

イスラームの社会的役割
～インドネシアの洪水時の救助活動を通して～

14W2116010J 国際政策文化学科 3年

小貫寛哲

近年日本では、イスラーム過激派などの報道を受け、イスラームに対する暴力的・排他的なイメージが広がっています。しかし、その認識は正しいイスラーム理解といえるのでしょうか。ある記事によると、インドネシアの首都ジャカルタでは毎年起こる洪水に対し、モスクが宗教を問わない避難所となり、多くのイスラーム団体が宗教にかかわらず救助活動をしているとありました。興味深いことに、日本では過激思想と結びつけられがちな原理主義を掲げる人々でさえ、「異教徒であっても助けるのが宗教上の義務だ。」と述べているのです。ここからうかがえるイスラームの姿は、日本人がイメージするものとはかけ離れたものです。本研究は、洪水時の救助・避難活動から伺えるイスラームの姿やその社会的な役割を検証し、イスラームの包括的な理解を目指すものです。グローバル化が深化する昨今、包括的な異文化理解はムスリムを含めた「異なるもの」との共存において不可欠です。

この検証のために、文献調査及び現地調査を行いました。文献調査では、洪水やイスラーム、インドネシアへの理解を深め、それをもって洪水の現場であるジャカルタを訪れました。ジャカルタで行った調査は参与観察と呼ばれるもので、実際に出来事が起きているその現場に入り込み、自らの五感で得た情報を分析する調査手法です。今回の参与観察では、洪水被災者であるジャカルタの住民と、イスラーム系救助団体へのインタビューを中心に行いました。ジャカルタ住民に対するインタビューでは、自然に本音や素の表情を引き出せるように、インタビューとは気づかれぬ雑談の形で情報を集めました。このような調査を成功させるために、インタビューでは大学で学んだインドネシア語を用いた為苦労が伴いましたが、より正確な情報を集めることができました。

このような調査の結果、イスラームは日本人が思い描きがちな暴力的側面とは異なる人道的側面をもっていることが分かりました。また、タイトルにも掲げたイスラームの社会的な役割は二つあると推測されます。一つ目は、暮らしを支える福祉的なメカニズムとしての機能です。ほぼ毎年起こる洪水に対し、モスクは避難所を提供し救助活動の際に中心的な役割を果たしています。また、イスラームの名の下に政府の救助活動を補完する形で、人命救助が行われています。二つ目は、異なる文化や宗教、民族などが交わる際に調和をもたらす役割です。人々は口々に「ムスリムにとって非ムスリムと助け合うことは大切だ。」と述べ、そのことは態度からも見て取れました。一方で、イスラームにはテロ行

為に象徴される暴力的側面があることもまた事実です。しかし、私たちはこの暴力的側面をことさらに強調するのではなく、イスラームに上記のような平和的な側面があり、それが社会の中で大きな役割を果たしていることを理解しなければなりません。それこそがイスラームの包括的理解なのではないでしょうか。